

| < もくじ > | |
|--------------------------|---|
| 1. 第9回研究会合同イベントの開催案内（再掲） | 1 |
| 2. 研究会からのお知らせ | 1 |
| 3. 各研究会の概要報告 | 2 |
| 4. 事務局からのお知らせとお願い | 5 |

1. 第9回研究会合同イベント（シンポジウム形式）の開催案内（再掲）

本年度の最後のイベントは例年3月に行われる研究会合同イベントです。今年は、社会保障研究会主催で「認知症ケア」の問題を扱います。認知症の原因はかならずしも一つではなく、その症状に陥る原因も機会もさまざまです。しかし現代社会では少子高齢化が進行し、老々介護が当たり前のようになりました。しかも多くの高齢者が社会とのつながりが希薄化し孤立化していくなかで、自らの社会の中での役割を見失いがちです。

その状況を背景に、認知症ケアにも現在の時代にあった手法が実践されつつあり、「ナラティブアプローチ」もその一つです。そこで今回は社会学およびジェロントロジーの研究者であり、本テーマに関する著書もある荒井浩道さんに基調講演をお願いし、具体的な実践者であるお二人の方にパネリストとしてお話をいただく予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■ 開催日時：2025年3月22日（土） 14:00～16:00

■ 開催主体：社会保障研究会

■ 開催場所：ちよだプラットフォーム402会議室

■ プログラム

司会：袖井孝子（当学会会長）

1. 基調講演：「ものがたりとしての認知症ケア ～ナラティブ・アプローチ～」

講演者：荒井浩道（当学会理事、駒澤大学教授、曹洞宗泉龍寺住職）

2. パネルディスカッション

パネリスト：

① 下村達郎（香念寺住職）※寺院での介護者カフェ運営

テーマ：「寺院で開く語り合いの機会 ～介護者カフェ活動～」

② 上野美知子（Co もれび主宰）※ケアラー支援として都会で森林浴

テーマ：「森林浴を用いた介護者・認知症当事者への支援の可能性について」

コメンテーター：荒井浩道

※ お申し込みは、JAAS News 配信メールでご案内のチラシ（ダウンロード URL を記載しております）に掲載いたします。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第168回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2025年2月19日（水） 18:00～20:00

2) 報告者：大竹雄二（厚生労働省老健局介護保険計画課長）

3) テーマ：「介護保険の現状と見直しに向けた検討状況について」

4) オンラインで開催いたします。

※ 参加を希望される方は、阿部 (fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) にご連絡ください。資料をお送りいたします。

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで
090-4436-6853

(2) 第59回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2025年2月21日(金) 17:30~19:30 Zoom開催

2) 報告者：鈴木さや(沖縄県南城市在住 パーソナルトレーナー 研究会メンバー)

3) テーマ：60代後半で東京から沖縄に移住、不安の乗り越え方とデジタル活用法

※ ご連絡ご質問は、中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願いします。

(3) 第53回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2025年2月22日(土) 18:30~20:30

2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第一グループ活動室

3) 発表者：YNS やまぶき任意後見、アワーズ、シニア学会員

4) テーマ：3月18日イベントに向けて

寸劇の新たな視点

劇団 ^{びしょうざ}「B笑座」

認知症を可視化し、できるだけわかりやすくします。人形劇、寸劇など劇団員募集しています。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(4) 第104回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2025年3月13日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：困った人が手を上げやすい環境づくり

発表者：安田 和紘

4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

3. 各研究会の概要報告

(1) 第103回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2025年1月23日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：『我がマンションのコミュニティづくり』—自治会有志の活動で知る無関心居住者の多さ・つながりづくりの難しさ

発表者：本田 恭助

本田さんは、自己紹介で退職後は「地域」に関わる仕事をしたいとの思いを強く持っていたと述べられた。発表の骨子は(1)「抱える課題『無関心居住者の多さ・つながりづくりの難しさ』」について、課題解決のためには、住民同士のつながりを強化する施策と、トラブルを未然に防ぐ仕組み作りが必要であること。また、個人のプライバシーを尊重しつつ、多様なニーズに応える柔軟な対応が求められること。(2)自治会の下部組織であるシニアクラブについては、その活動をキーに繋がりづくりを促進・継続が力であること。居住者の高齢化が進む中で、「住民同士のつながりを促進して、寄り添う、助け合う関係を構築」したい。先ずは、高齢者になっても不安を出来るだけ減らし、安心した暮らしが出来るようなマンションにしたい。(住民間の関係作り)(自助・共助・公助の上手な活用)。(3)本田さんご自身が立案し、地域包括支援センターと具体化中の「高齢者向け勉強会」を準備中であり、4月スタートを目指していること。(4)マ

ンション住民間のつながりづくりの今後として、①まず、「おはよう」など声掛け・挨拶から始める。②シニアクラブの活動を起点に繋がる人を増やしたい。(シニアクラブの Warm Heart で動かす)そしてペストフの三角形で市民社会の捉え方を、シニアクラブの活動に落とし込みたいと述べられた。

濱口座長は、コミュニティとアソシエーションの言葉は、経済学に大きな足跡を残したアルフレッド・マーシャルの箴言「温かい心と冷徹な頭脳」(warm heart and cool head)が有効だろう。相反しがちなこの2つの視点を欠いた人間関係は想像できない。なぜなら人は喜びを喜び、悲しみを悲しむ縁を持ってない人生を歩めないからである。コミュニティとアソシエーションの2つの対照的な人間関係形式が成り立つ根拠もこの2つの心理形式を内包している故である。ゆえにコミュニティとアソシエーションの言葉は有効であると思う。とコメントされた。

(島村健次郎 記)

(2) 第52回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2025年1月25日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

(鈴木眞澄 記)

(3) 第167回 「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2025年1月29日(水) 18:00~20:20
- 2) 報告者：吉田 学(社会福祉法人日本保育協会・理事長)
- 3) テーマ：「地域包括ケアから地域共生へ~2025年を迎えて~」
- 4) 参加人数：14名

団塊世代がすべて後期高齢者になる2025年問題は、団塊ジュニア世代がすべて高齢者になる2040年問題に置き換えられた。2025年に向けて様々な少子化対策が講じられたが、効果はなく、2040年には労働力人口が2割減少する。人口減少社会においては、①DXも含めて、少ない支え手で回るシステム、②全世代型社会保障、③地域医療供給体制の確立が必要である。

地域包括ケアは制度ではなく、ネットワークである。地域によって利用できる資源や状況が異なるので、画一的な設計図は描けない。事業者、専門職、自治体、住民による「顔の見える関係」を通して、医療・介護、住まい、移動、防災など住民が直面する困難に対処するのであり、「まち(コミュニティ)づくり」に他ならない。包括的重層的支援によって、高齢者、こども、障がい者、ひきこもりなど世代を超え分野をこえて繋がりが合うことで地域共生社会の基盤づくりが可能になる。

参加者からは、都市部における互助を実現することの難しさ、コーディネーターの役割を果たす人材の不足、介護におけるDXの推進が施設の人員配置基準の見直しに繋がらないかという懸念が示された。報告者からは、人材についての成功事例はあるものの相談事業に金を払いたがらない日本人の習性がネックになっている、DX化の推進により人間でなくともできる作業はAIやロボットに任せ、命や尊厳にかかわることに集中して人があたれるようにすべきとの指摘があった。

(袖井孝子 記)

(4) 第58回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2025年1月31日(金) 17:30~19:30 Zoom開催
- 2) 報告者：栗野牧子(岩手県 北上市在住 農業従事者 研究会メンバー)
- 3) タイトル：食の安全—生産者・市場・消費者

小学校教員を退職後、極小兼業農家の後を継ぎ近隣の青果市場に出荷して8年、ニンニク300gの買取価格が50円であった。例年の3分の1である。国産であり無農薬である。なぜにこの安価であるのか。主に以下2点の認識不足が浮かび上がった。1. 無農薬は、青果市場で

は付加価値にはならない。2. 無農薬表示も農水省より禁止されている。青果市場自体が市場外流通の増加により業者も減少し競争力が弱くなっている。傾向を伝票から辿ると、安値で買取るのは同一の業者であることが見えてきた。農家は値をつけられる受け身から主体的につけられる産直や契約にすでに移行していた。耕作面積が広くなれば省力化から機械化が進む。除草剤の使用は避けられない。基準量以下であれば身体に害はない。とはいえ私の居住する集落では誰も自家消費用の野菜には除草剤を使用せず一日中草取りをしているのが実態だ。消費者のニーズは多様化している。求められている事柄に自信を持って適正価格で届けたいと生産者は、強く願っている。そのルートを持てる時代に変化しているのだ。生産者は、主体性を持つことが求められている。手立てはあるのだから。世の中の変化にやっと気づいた一件であった。

【参加者の感想】

- この分野に詳しい参加者から、●農薬の使用については、農薬取締法（農林水産省）で厳しく管理されている。●食品中の残留農薬は、食品安全委員会（内閣府）でリスク評価が行われ、一日摂取許容量などが決められる。これをもとに残留基準値が定められる（食品衛生法／厚生労働省）。●使用、残留が認められたもののみリスト化する「残留農薬等のポジティブリスト制度」が導入され、基準値を超えたものは流通しないように規制されている、などの説明があった。
- 畑仕事は地元住民とのコミュニケーションツールになる。•農業は 後継が課題となっている。
- 市場で中国産野菜について警告が出たことがあり、それ以来、生産国を気にするようになった。（香港在住経験 4 年）
- 中国産のチンゲン菜を食べたインコが急死した悲しい経験がある。
- 免疫力を高める薬効のある黒ニンニクを作り続けている。
- ゆずを育てて 10 年目、実が実った時に収穫の喜びは大きかったなど。

（栗野牧子 記）

(5) 第56回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2025年2月5日（水） 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 報告者：安田育生
- 4) テーマ：「飲料自販機におけるQR 決済サービス事例」の報告
- 5) 概 要：【安田育生さんの資料に沿って報告】

1. 飲料自販機に関わる事業状況

- 事業上の課題は、ルートマンとして信頼できる人が必要、回収した現金の称号時間の低減等。

2. 飲料自販機に関わる事業改革

- ICT を利用したキャッシュレスサービスの導入。

→自販機でのポイントサービス、細かい値引きサービスが可能になる。

3. 飲料自販機におけるQR 決済サービス事例

- QR 決済サービスの利用率は設置場所により利用率が異なる。

→会社が入居のビル内>屋外設置

4. まとめ

- 小銭を持たない傾向の若い世代の利用拡大が見込める一方、街中の屋外設置自販機に対する利用拡大策は不明。

- シニアのQR 決済サービス利用普及がキモ。

【その他ICT 利用に関してフリーディスカッション】

- シニアのキャッシュレス化はどのように進めるべきか。

- スマホの電池切れで連絡が取れなくなった事例もあるなど、スマホがないとだれにも連絡ができない場合も生じてくる。→最後は「アナログ」か？

（森やす子 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

< 会員情報変更時のご連絡のお願い >

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

< 2025年3月 JAAS News の発行日 >

次回 JAAS News 第307号の発行日は、2025年3月19日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、3月14日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>